四国新聞　2023年10月22日

香川の医療最前線 657

脳心連携で予防に注力

生活習慣見直し意識改革を

県立中央病院脳神経外科部長　西廣真吾氏

◆にしひろ・しんご　2009年岡山大医学部卒。福山市民病院脳神経外科、岡山大学病院脳神経外科、県立中央病院脳神経外科医長などを経て23年から現職。日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会認定脳卒中専門医、日本脳神経血管内治療学会認定専門医。広島県三原市出身。40歳。

脳梗塞の治療

脳の血管内で血の塊（血栓）が詰まることにより発症する脳梗塞。冬に発症することも多く、心臓の不整脈（心房細動）が原因の一つとされている。急性期治療で重い後遺症になる前に回復する可能性があるが、原因となる心臓の病気（心房細動）を放置すれば再発の危険性がある。県立中央病院では脳神経外科と循環器内科で「脳心連携チーム」を立ち上げて対応し、予防に力を入れている。西廣真吾脳神経外科部長に脳梗塞の治療法や特別チームの役割について聞いた。

―脳梗塞とはどんな病気か。

血管が詰まって神経細胞に栄養が行き渡らなくなって死滅することだ。結果、さまざまな機能障害を引き起こしてしまう。大きく分けて3タイプで、比較的細い動脈が動脈硬化で詰まる「ラクナ梗塞」、高血圧症や糖尿病など動脈硬化因子と関連する「アテローム血栓性脳梗塞」、心房細動などの不整脈が原因で心臓に出来た血栓が血流に乗って脳の太い動脈が詰まる「心原性脳塞栓症」がある。このうち、心原性脳塞栓症は冬に多いとされ、これからの季節は注意が必要だ。

―心原性脳塞栓症とは。

心臓の不整脈、いわゆる心房細動が原因で起こる。心臓が不規則に動くことで血流がよどんで血栓ができ、それが血流に乗って脳の血管に入って詰まってしまう。

―治療法を。

「t―PA（アルテプラーゼ）静注療法」と「血栓回収療法」がある。「t―PA」は血栓を溶かす薬を点滴で静脈に投与する。近年はこれに加え「血栓回収療法」が行われている。これはカテーテルを脚の太い動脈から血管が詰まっている場所まで誘導して血栓を回収するもの。当院では年間約40例ほど行っている。

―「脳心連携チーム」とは。なぜ立ち上げたか。

脳神経外科と循環器内科で患者の情報を共有するため。治療で救えたとしても、原因の心房細動を放置すれば再発の可能性がある。心原性脳塞栓症は1年以内の再発率が約20％。再び発症すると新たな後遺症が加わり、重症化しやすい。再発予防がとても重要なので、両者が連携し、最適に対応することが求められる。例えば、循環器内科で行う高度医療を急性期の段階からつなげていくことが可能。急性期の入院中に患者の心機能が良いかどうかや不整脈の有無などを精密に検査できる。難しい病態の診断精度も上昇した。予防薬の適切な調整などができ、心臓のトータルマネージメントが可能になった。

―改めて脳梗塞に対して大事なことを。

脳梗塞は一度発症してしまうと大なり小なり後遺症が残ってしまう。まさに「予防に勝る治療はなし」だ。生活習慣を見直して血液をどろどろにしないようにしたり、健康診断で不整脈を調べたりすることが大事。水分補給で脱水にならないなどにも注意を払ってほしい。本人だけでなく、家族ぐるみで意識改革をしてもらえれば。

脳心連携チーム

脳	●脳梗塞を発症した患者が脳神経外科へ入院 ▼ ●脳梗塞の病型に応じて治療
心	●心原性脳塞栓症あるいはその可能性が否定できない患者はすべて循環器内科へ紹介 ▼ ●心疾患の精査と加療

■ 県立中央病院脳神経外科

脳神経血管内治療専門医２人を含む脳神経外科専門医５人が在籍し、高度な医療を提供している。四国初の「脳心連携チーム」を立ち上げ、脳卒中・循環器病に対するトータルマネージメントを行っている。

所在地：高松市朝日町１の２の１
電　話：087（811）3333
https://www.chp-kagawa.jp